

【建長寺“さわる”模型プロジェクト 趣意書】



このページにお寄りくださり、ありがとうございます。

この度、鎌倉を代表するお寺である建長寺の境内に、同寺の仏殿をかたどったミニチュアブロンズ像を設置します。目的は、目の見えない人が、建物の形を手で触ってわかるようにすること。屋外に置くことでその存在を多くの人の目に触れさせ、目の見えない人と見える人が「場を分かち合う」きっかけとします。

このプロジェクトは、大本山 建長寺様、公益社団法人 鎌倉市観光協会様、鎌倉市社会福祉協議会様 にご賛同いただいています。

つきましては、是非とも趣旨にご理解、ご賛同いただき、格別のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2022年7月吉日

ユニバーサル絵本ライブラリー UniLeaf (ユニリーフ)

代表 大下 利栄子



(「そんなに高くないね・・・」跳ね返って来る音で高さを測っています)

#### 【概要】

今回の建長寺仏殿ミニチュアブロンズ模型は、手でさわることを前提とします。大きさや高さは、さわるのに適したものにします。ガラスケースなどには入れません。誰の目にも触れるよう、境内の実物すぐ近くに設置します。

この建物模型のモデルとなったのは、ポルトガルの有名な観光地「ベレンの塔」にあるものです(写真)。模型を覆うガラスケースや、立ち入り禁止のロープはありません。そして、本物のすぐ目の前にあります。



(世界遺産 ポルトガル ベレンの塔)

## 【背景】

建物模型の生みの親はドイツの金属彫刻家、Egbert Broerken 氏。市内ツアーで戸惑う目の不自由な子どもたちの様子にショックを受け、考案しました。以来、高い評価を得て拡大。今ではヨーロッパ60の都市に120もの模型が作られ、増え続けています。近年は街並みまで触れるようになりました。

8年前、ポルトガルを旅行中、初めて模型に出会い大感激！日本にも絶対ほしい！と、忘れられない夢になりました。それはなぜか。私が盲目の娘との旅行でいつも感じる、一抹の寂しさを払拭してくれると確信したからです。



「観光」とは光を観る。見えなければ、法隆寺も近所のお寺も「ただの部屋」以上にはなりません。さわれなければ、誰もが心躍る世界遺産でただ一人「眠くなる」のです。今日の日本では、京都や奈良の世界遺産でさえ、触れるものもいただける資料もほとんどありません。

お寺の建物一つとっても、その形には仏教的な意味があり、歴史上のエピソードがあり、建築学的な美しさがあり、それこそが多くの人を惹きつけてやまない理由だというのに・・・「見えないと建物が分からないなんて考えたこともなかった！」どこに行っても100%そう言われるのです。

【共に生きる社会のために】

この模型は、目の見えない人のためだけではなく、目の見える人にも、全体像や鳥瞰図といった新しい視点を与えます。さわってみて初めて気づくこともあるでしょう。

良いことは他にもたくさんあります。例えば、

- 模型自体が美しい芸術品。「観光名所の価値を高め、都市の文化を豊かにする」。
- 体の不自由な新たな訪問者を呼ぶ。受け入れ側も慣れ、地域の弱者にも優しい街に。
- 段差やトイレでない、名所そのものをバリアフリー化する希少な事例。
- 誰の目にも触れ「これは何？」広く明るく楽しく障害を意識するきっかけに。
- 子どもも禁止されず、自由に文化財にさわれる！



(模型イメージ)

そうして、目の見えない人と見える人が交わるきっかけにします。両者が同じ模型を囲み、発見を分かち合う場ができたなら・・・それがあたりまえの光景として社会に根付いたら・・・そんな「共に生きる社会」への1歩となってくれるに違いありません。

【触覚の驚き！ユニバーサルな化学反応が起きる】

全盲の娘と、京都の国宝、三十三間堂に行った時のエピソードです。

三十三間堂には、本堂の出口近くに、「触って OK」マークの付いた建物模型が置いてあります。娘が模型を触り始めしばらくすると、「三十三間堂なのに、35 あるよ」と言い出しました。



(国宝 京都三十三間堂の建物模型)

えっ！？ 何かの間違い？ 通りがかった御僧侶にお尋ねすると・・・「両端に廊下があるので、その分だけ1つずつ余計にあるんです。だから35で正解です」とおっしゃいました。

さらに、娘は、「柱の間隔が、正面より後ろ側のほうが狭いです」。

これについては、「柱の間隔は同じなのですが、後ろ側は明かりを取る必要がないので、壁が多くなっています。反対側は、朝夕、天皇が、仏様に向かい合うので、上から下まで開けられるようになっているから、壁が少ないのです」とおっしゃいました。

そして「一般の人より、よほど理解が深いですわ」と、言ってくださいました。

気が付くと、周囲には人だかりができていました。話が終わると、子どもたちが何人も寄ってきて、「触りたい!」。コロナ禍ではありましたが、皆たっぷり触って楽しんでいました。



(写真はどちらも三十三間堂様に許可をいただき掲載しています)

三十三間堂には、有名な千手観音像のレプリカもあります。

信仰の対象をさわる、ということについて御僧侶は、「目の不自由な人のためになるなら、それをふさわしくない、と言う人はいなかった」「人として、お寺として、そこに疑問を持ったらいけない」とおっしゃいました。

障害者は皆、断られ続けてきた人たちです。私は深い敬意を覚え、三十三間堂は今も私にとって特別な場所、思い出す度、温かい気持ちがよみがえる、大切な場所になっています。

古都鎌倉の誇る建長寺様がさわられるようになり、不自由のある人々にとって、私の三十三間堂のような、温かい、特別な場所になることを、私は切に願っています。

【発見を分かち合おう！ ～ より豊かになれる】

そして、そのミニチュアの先にあるのは・・・見ること、さわること、を、お互いに分かち合い、楽しんで、同じ空間が2倍豊かになる！という世界です。盲目の娘との歳月に、どれだけの驚きや発見があり、日々が豊かになったか・・・それは、私自身、繰り返し経験してきたことに他なりません。

建長寺“さわる”模型には、そんな夢も託しています・・・



最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

今、子どもたちに、どれほどの人が君たちの笑顔を願っているかを知らせたい・・・  
皆様の思いと希望と夢を、ご一緒に形にしましょう。子どもたちの未来のために・・・

ユニバーサル絵本ライブラリー UniLeaf